

色丹島・択捉島問記 平成18年7月6日～10日

鶴井 了太 ((社)高岡青年会議所／写真右)

最近、領土・領海問題で揺れている日本。

やはり日本人として、わが国固有の領土の問題を他人事としてみるわけにもいかないがどちらかというと世間はこの問題についてあまり認識はないのではないのでしょうか？その領土・領海問題にある島の中でも日本人が実際に住んでいた所が北方領土です。

北方領土とは、北海道根室半島の沖合にある島々で日本が領有権を主張している択捉島、国後島、色丹島、歯舞諸島の事で北方四島ともいいます。

1945年8月15日の太平洋戦争終戦直後(ポツダム宣言受諾後)の8月27日から9月4日までの間にソ連軍により不法占拠され当時1万7千人あまりいた日本人は強制的に島を追われ現在は1万4千人のロシア人しか住んでおらず現在、日本人は住んでいません。ちなみに北方四島からの引揚者は富山県が北海道について2番目に多い県です。

この北方四島交流訪問事業は1992年(平成4年)よりロシア側より提案されパスポート、ビザなしでの四島交流事業が始まりました。以来、相互に訪問した人数は1万人を越え日本側が北方領土問題に対する主張を伝えるとともに四島の住民が日本の実情や日本人の考え方を理解してもらうための機会でもあります。

今年度の北方四島交流訪問事業に(社)高岡青年会議所を代表して私、鶴井了太が参加してきました。参加者は63名、中には元島民の方もおられました。今回は富山県が幹事県ということもあり富山県からは14名の参加となりました。

7月5日

根室にある北海道立北方四島交流センター(ニホロ)で丸一日、研修を行いこの交流団の主旨説明を受けました。別室では北方領土に住むロシア人が日本語の研修をしていました。

また夜の交流団の懇親会では、根室市長をはじめ根室JCの方にもお会いすることができ、お話をいろいろ伺っていると「北方四島が返還されればコンブなどの海産物が特産品である根室市の活性化に非常に繋がる。」とっておられました。現在は漁業権をとるためにロシア側にお金を支払いしかも時期限定で漁に出ているとの事でした。過去に何度も日本の漁船がロシアの主張する領海線を越え拿捕されているそうです。そして北海道の納沙布岬から約3.5キロ先の歯舞諸島の水晶島には国境警備隊が駐留しているそうです。

7月6日 くもり

朝9時、大勢の方に見送られ根室港を出ました。今回の訪問では歯舞諸島や国後島には上陸せず国後島の沖で上陸手続きを行い一路、色丹島へ向かいました。この日は一日中船の中で過ごしました。船の船長さんはとても気さくな人で北方領土周辺の海峡のお話をいろいろな話をしてくださいました。

7月7日 雨のち曇

朝7時(現地時間9時 時差は2時間)、とうとう色丹島へ上陸し、ダネリヤ南クリル地区議会副議長との意見交換会をしました。その意見交換会では副議長より「最近ロシア政府から予算が回るように

なり10年後には隣国(日本?)と同じ生活水準になっており我々はもう人道支援は必要がない」との発言がありました。ちなみに未だゴミはポイ捨て、水道、電気の供給は不安定、舗装は全くといっていいほどされていません。しかし本当に島が整備されるのであればロシア側はこの四島を日本に返還する意思はないのではないかと考えさせられました。小学校も1994年の北海道東北沖地震による災害復興で日本が人道支援で建てた校舎の横にロシア政府発注で鉄筋コンクリート造りの新築工事が進められていました。その小学校の教頭先生が「北方領土問題は大人が作り出した問題であり、今の子供達には関係がない」と言われました。教育者がこのようなことを言うようならばこの国(ロシア)はあまり北方領土については全く問題視してないような感じでした。

7月8日 晴

8日は色丹島を離れ択捉島に上陸です

朝の択捉島の留別湾の風景がいまでも忘れません。空は雲のない青空で



いい感じに山に霧がかかっている初めて見る神秘的な風景でした。

択捉島ではまず初めに行政(県庁みたいなどころ)に訪問しました。そこで、スベトロフ「クリル地区」議会議長兼地区長(多分、県知事みたいな人)とカルプマン「クリル地区」行政長とお会いしました。

その後、紗那中学校にて歴史郷土博物館を見学しましたが驚くべきことに北方四島の歴史の年表には8月15日の太平洋戦争終結のことがまったくありませんでした。これはロシア政府のプロパガンダなのでしょうか??その後、同中学校にて対話集会をしました。ここでは一般の島の居住者(ロシア人)も参加の意見交換会となりました。内容は島の農業について、教育について、北方領土についての意見交換を行いました。

ある訪問団(日本人)の一人が「旧ソ連が侵略したこの島をあなた方は返す気があるのか?」という意見に対し、まわりにいたロシア人は一斉に騒ぎ出し一時は収集困難な事態になりました。あるロシア人は興奮して「我々が侵略者に見えますか?私はここに48年間住んでいてここは私の故郷なのだ!」とものすごい形相で発言しました。しかし日本の訪問団の一員(元島民の方)は冷静に「私もここで生まれ13歳の時にソ連軍が来たときに命からがら逃げてきたのだ。私の故郷でもある。」と反論しました。冷静に考えると今ここに住むロシア人にしても戦後、強制送還された日本人もお互いにここで生まれ、ここで育ってきたのです。誰でも生まれ育ったところには格別の思い出があります。自分はその会話ではなんともいえない切ない気持ちになりました。

その後ホームビジットとなりました。これは訪問団が割り振られた各家庭にお邪魔して仲良くお話ししようという企画です。家庭料理(主に魚料理)をいただきながら3時間半の訪問となりましたが通訳さんがいる時間は1時間だけです。あとは会話ブックを参考にして身振り、手振りの会話となります。驚いたのは自分が訪問した家庭にはノートパソコン(韓国製)があったことです。なんとインターネットも出来るらしいです。一緒にいった訪問団の方は ipod の音楽をいつの間にか全部吸い取られていました。まあ当然文字化けしていましたが。ちなみにキーボードの文字はロシア語です。

7月9日 晴

最終日となったこの日はまず初めにギドロストイという島の唯一の企業で



あり一番大規模な水産工場に行きました。忙しい時期は夫婦で働けば16万円の賃金がもらえるそうです。

ここではかなりの高給です。あいにくこの時期は次の漁期に備え工場設備の切り替え時期で工場自体は稼動していませんでした。建物自体新しく工場設備もドイツ製やアメリカ製の最新鋭の設備でした。

その後、日本人墓地のお墓参りに行きました。ロシア人のお墓(土葬)の傍らに日本語で書いてある日本式のお墓がひっそりとありました。お墓はかなり荒れており全く手入れがされていません。ここでは訪問団の一人一人がお線香を持ち両手を合わせ読経しました。色丹島でもお墓参りをしましたが色丹島は山の中にポツンと寂しげにたったのが今でも忘れません。ここに眠っている人達(ソ連軍が侵攻する以前に亡くなられた人たちは今の状況(北方領土問題)をどんな思いで見ているのでしょうか？

そして場所を変え「漁師の日」というお祭りに参加しました。ここではビーチバレー大会、クッキング交流(巻き寿司)、折り紙大会、手品大会をしました。

ビーチバレー大会では本川監事と自分は運営を任せられておりチーム編成は日本人2人、ロシア人2人の編成で試合をしました。言葉が通じなくてもとても素晴らしいチームワークで熱い試合となりました。

最後の日程として日本式家屋の視察に行きました。そこは戦前、日本人が郵便局、水産会館として使っていた建物でいまは使用されておらず荒れ果てて倒壊危険家屋にされているそうです。ここでは日本人が住んでいたという足跡を改めて見る事が出来ました。

最後に

北方四島交流訪問団に参加して、改めて北方四島の状況を知ることが出来ました。日本側の言い分、ロシア側の言い分、そして島に住んでいた人たち、今現在住んでいる人たち。もうこれは民間レベルの話し合いでは収まりきれなくなっているのでは

ないでしょうか。

国が率先して返還運動を進め世論を高めて、国民と政府が一体となって運動を進めなければ、このままでは北方領土問題は平行線をたどるところか訪問事業自体がなくなっていくのではないのでしょうか？

元島民の方たちの高齢化も進んでいます。友好交流といって日本側が友好的な態度をとっていてもロシア側の住民はなぜ自分たちはここに住んでいるのかということも北方領土問題というものもほとんどの住民は知らないような感じでした。もう一歩でも二歩でも踏み込みはっきりした態度で返還運動に挑まなければいけないのではないのでしょうか。ロシア側の言い分も理解できますが、日本側はこの問題を穏やかな態度で望み続けると先方の自尊心を高めすぎ、日本人としての北方領土に対する自負心を自ら傷つけていることになるのではないのでしょうか？

自分もこういった事業に参加させていただいたので一人の日本人としてこの問題(領土・領海問題)に対して積極的に活動・勉強をしていきたいと思えます。

自分はニッポンという国が好きです。日本人としての誇りを忘れずに！！

